



## 刊行物

新版絵巻物による日本常民生活絵引(全5巻、付総索引)(1984)

神奈川大学日本常民文化研究所調査報告

第9集十三塚現況調査編(1984)・第10集十三塚-実測調査・考察編(1985)・第11集仕事着-東日本編(1986)・第12集仕事着-西日本編(1987)・第13集民具実測図の方法 農具(1988)・第14集民具実測図の方法 漁具(1989)・第15集民具実測図の方法 生活用具(1990)・第16集運搬具(1992)・第17集漁民の活動とその習俗(1993)・第18集漁民の活動とその習俗(1995)・第19集暮らしのなかの技術と芸能(2002)

民具マンスリー...第15巻1号(1982.4)~第36巻9号(2003.12現在)

神奈川大学日本常民文化研究論集...『歴史と民俗』1~19(2003.12現在)

神奈川大学日本常民文化叢書

喜界島風土記(梶嘉一郎)・鍛冶道具考(吉川金次)・瀬戸内西部の漁と暮らし(進藤松司) 芦東山日記(橘川俊忠校訂)・ハワイ日系移民の服飾史(バーバラ・F・川上、香月洋一郎訳)・伊勢道中日記(西和夫編)

奥能登と時国家全五巻

上記刊行物は『民具マンスリー』以外は平凡社刊

## 講座

民具研究講座...1982年~1995年まで14回開講

常民文化研究講座(1997~)...

日本文化研究の領域を新たに活性化させようとする意図のもとに、1997年以来、年1回のペースで開催している。講座は、毎回テーマを設定した講演会、シンポジウムと、2つの実習(古文書修復実習、民具実測実習)で構成されている。



企画展「ぬいもの・つくろいもの」展示風景

## 展示

2002年より本学3号館常民参考室において秋に2か月程度定期的に開催。

## 『常民ニュースの発行』

本研究所の日常的な活動を伝えるニュースレターとして、1998年7月以来、年4回のペースで発行している。研究会、展示のお知らせ、所蔵資料の紹介等の記事などで構成される。

(日本常民文化研究所所長 香月 洋一郎)

## 研究拠点紹介

# 外国語学研究科 中国言語文化専攻

私たち外国語学研究科中国言語文化専攻のことを紹介する前に、まずその母体である中国語学科の歴史に触れておこう。

中国語学科が英語・英文、スペイン語の両学科について外国語学部誕生したのは、1988年4月のことで、今の1年生は16期生にあたる。創立時から維持してきた学科の方針は、中国語の習得はもちろんのことだが、学生の興味に従い、言語、文学、歴史の3つに分けて専門的な知識を積み、教養を深めることであり、それを主に少人数のゼミナールで鍛えるというものである。

その後、試行錯誤を伴う実践の積み重ねの過程で、学科の方針を一層専門化した内容で、1992年には修士課程、95年には博士課程を設けて、徐々にではあるが、研究者を養成する体制を具えるに至った。そして、10年近くの間5人に博士号を授与することができた。院生の論文は毎年1回発行の『言語と文化論集』に掲載している。

### 主な研究活動と刊行物

この間に研究科所属メンバーが中心となって取組んだ共同研究やシンポジウムのテーマ、研究成果の公刊等を時間順に紹介するならば、次のようなものである。

- 1988～91 「横浜市における華僑の成立過程とその社会的役割」(横浜市地域研究費補助金)
- 1993～96 「横浜市華僑の戦時中および終戦直後の概況」(横浜市地域研究費補助金)
- 1995 『秘密社会と国家』人文学研究所叢書11、勁草書房
- 1997.11.27 シンポジウム「日・中関係100年を問う 21世紀を見据えて」  
中国語学科創立10周年を記念したもので、この全内容は『人文研究』No.149、2003年に掲載した。
- 1998 中国語学科創立10周年記念論集全3冊、『中国通俗文芸への視座』、『現代中国語学への視座』、『中国民衆史への視座』、東方書店
- 1998～2001 「明治期から昭和20年までの日中文化交流に関する資料の収集と分析」(文部省科学研究費補助金)  
この研究成果は『中国人日本留学史研究の現段階』、2003、御茶の水書房。
- 2000～2002 「戦前中国における日本租界の研究」(神奈川大学共同研究奨励金)  
この研究成果は『人文研究』No.149、2003に掲載。
- 2001.2.19 シンポジウム「アジアの座標軸を求めて PART1 東アジアの相互認識」  
このシンポでの報告及び関連するテーマでの座談会は『神奈川大学評論』39、2001に載った。
- 2001.10.4 シンポジウム「アジアの座標軸を求めて PART2 戦後補償と在日外国人の人権」
- 2001.11.5 パネルディスカッション「金庸作品の魅力を探る」  
この時の報告集は『歴史と文化の境界 金庸の武侠小説をめぐって』人文学研究所叢書19、2003。
- 2002 『日中文化論集 多様な角度からのアプローチ』人文学研究所叢書18  
それまで9年間毎年1回開いてきた人文学研究所と浙江大学日本文化研究所とのシンポジウムでの報告をまとめた『中日文化論叢』全9冊のうち、その主なものを選んで1冊にまとめた。
- 2002～2004 (継続中)「環東シナ海伝承文化の総合的研究 海洋ネットワークの視点からの接近」  
(神奈川大学共同研究奨励金)
- 2003～2005 (継続中)「近代思想の受容と探偵小説」(神奈川大学共同研究奨励金)
- 2003～2006 (継続中)「東アジアにおける『学』の連鎖 中華民国期の日中間の留学生 派遣に関する比較研究」  
(文部科学省科学研究費補助金)



主な刊行物

### 今後の課題

これまで取組んできたことを以上のごとくに並べてみて、当初は思ってもみなかったほどにテーマや関心が広がり、成果もそれなりの形で残してきたことを確認できる。といって、いづれも完成された内容とはいいがたく、これからも継続した研究の積み重ねを必要とするものばかりであり、現に継続中の共同研究も複数ある。今後、所属院生を含む若手研究者を動員して彼らの能力を最大限に引き出すことに努めつつ、共同研究の実をあげたいと思う。

このたびのCOEのプロジェクトには研究科から4人が参加しており、院生の参加も働きかけていく。研究科全体としてもバックアップすることを確認しており、今後の進展に応分の役割を発揮できればと願っている。

(外国語学研究科運営委員 大里 浩秋)